



赤ちゃんの死に泣き崩れる母（沢内小の「生命村長」より）

「生命尊重」の学校文化祭

没後50年 深澤精神を継承

深澤晟雄村長没後50年の今秋は、生命尊重の深澤精神や業績を学校の文化祭を通じて発表、先人の志に学ぶとともに父兄や地区民にも深い感銘を与えました。

沢内小と沢内中では演劇を中心に、盛岡市の杜陵高校では「岩手の偉人展」として写真・ハネルや映像資料を上映しました。

生命尊重の志に

感動呼ぶ沢中祭

沢内中学校の文化祭は10月24日に行われ、舞台発表で3年生は深澤村長をテーマとする演劇「いのち」を上演しました。

乳児死亡率ゼロ達成に

住民と一体で活躍した保健婦を象徴する、真冬の命を賭けた「炭焼き小屋の赤ちゃん」救出場面には観客の涙を誘いました。

3年生 佐々木瑠海さんの「わたしの主張」具大会最優秀賞の発表など、「生命尊重の志」に燃える同校の学習成果が文化祭に満ちていました。

生誕110年に

命輝く学習発表

沢内小学校の学習発表会は10月31日に行われま

沢内の生命行政に 日本の未来を探る NHK番組がネットに

NHKのEテレ（教育テレビ）7月放送の「戦後史証言プロジェクト・高齢化社会～医療はどう向き合ってきたのか～」の番組がインターネットで公開されています。

NHK「戦後史証言アーカイブス」のホームページ <http://www.nhk.or.jp/postwar/> で放送番組をそのまま観ることができます。

「生命行政」を掲げ全国に先駆けて老人医療費無料化を実施した旧沢内村の医療の現場を証言で振り返りながら、日本の超高齢化社会の未来を探る90分の番組です。

いのちの風土に 触れたいの声も

盛岡市の杜陵高校文化祭「杜高祭」は10月31日の一般公開となりました。

今年「岩手の偉人・深澤晟雄」をテーマに深澤晟雄資料館提供の写真パネル展示やDVDによる映像資料を上映しました。

会場では、看護師のグループから、ぜひ西和賀を訪ねて「いのちの風土に触れたい」との声もあって好評だったそうです。

「元役場職員が綴る・あの頃の思い出」文集から

深澤晟雄村長の思い出 ②

～故太田祖電さんの回想録～



人間性豊かな太田さんご夫妻は、人々の人生の師として慕われました。(写真は、太田祖電さん本葬時の配布資料から転写)

前号から太田祖電さんが教育長時代に深澤村長と生命尊重行政を共にした当時を語る「深澤晟雄村長の思い出」は今回で終ります。前号の本欄を読まれた岡山県の笹倉千佳弘様から次の感想メールが寄せられました。

「本誌」に深澤村長は懐が深い。深澤村長と太田祖電さんが二人三脚で沢内行政に携わっておられた時代にタイムスリップできたら、お聞きしたいことは山ほどあります」と感銘深いメールでした。

村と教組負担で

学校に風呂設置

その夜は太田小学校の宿直室に、村長と私と、組合の幹部が一晚中語り合った。その結果、沢内方式としてストライキは勤務時間外集会とした。岩教組本部も、沢内は特別だと例外扱いをしてくれた。今では考えられない楽しい思い出である。

また、貝沢地区は昔から風呂に入る習慣が極めて少なかった。そこで、深澤村長と相談の上、学校に風呂を作ることに、経費の半分は村が、残りの半分は岩教組が出して風呂場を作った。

最初は児童生徒と教員が入っていたが、やがて父兄も入るようになった。

り、さながら公衆浴場となった。これがきっかけで、各家庭でも風呂に入る習慣が広まっていった。

故深澤晟雄村長には、表面の事象にとらわれない本質を見抜く深い眼差しがあった。左派や右派の政治家の先生方が来て、それぞれに異なった論を吹っかけてきても、村長は「全く私も同感です」と応えていた。

私は「村長の考えは一体右なのか左なのか」と尋ねると、平然として「あの人々の考えは、みんな海の表面の波のようなものだ。私の思想は、その海を支えている海底のようなものだ」と話してくれた。

私は、この一言ですっかり深澤村長のとりこになってしまった。

わたしの 主張大会 西和賀初の県代表

9月11日盛岡市で開 賞に輝きました。

東北・北海道地区代

かれた第17回わたし 佐々木さんの県大会 表は逃しましたが、11月の主張県大会で、沢内 最優秀賞は、西和賀の 月8日東京で開かれた中学校3年 佐々木瑠 旧町村時代を含めて初 全国大会に招かれて努海さんが生命尊重の深 の快挙となりました。 力賞を受賞しました。

澤精神をテーマに「支

えられている命だから」

と題して発表、最優秀

とし、電話等の予約によって開館します。